



○ 建築Ⅱ

建築基礎技能習得コースの授業が始まり、私も講義を聴きにお邪魔し始めました。最初の授業は建設業界の全体的な説明ややりがい、安全管理等にかかわる内容でした。講師は柳井市の井森工業㈱から福田次長さんに来ていただき、具体的な事例を交えて説明していただきました。前回のKOCHO だより 54号で紹介したように、私も建築業界に少しだけかかわっていたことがあるので、話の全てにうなずきながら聴いていました。

現実的にはその後私は違う職業に就いて働いてきましたが、ものづくりという点では共通することが多いですね。自分が“造る”ことにかかわったものが“残る”ということも一つ挙げられます。「残るものを造る。」ということは考え次第でプレッシャーにもなるし、やりがいにもなると思います。前向きに考えていきたいものです。

保育士という職業も対象はものではないけれどつくる仕事だと思います。“子どもの成長をつくる”というふうには言えないでしょうか。やりがいのある仕事です。

前回に続き、以前発行したたよりをご紹介します。



平成28年(2016年)3月2日

KOCHO だより 58 岩国市立米川小学校 須内



○ ものづくりⅢ

土木建築の話題になってきていますが、この「とより」に記述している内容は全てが科学・技術的に正確なわけではありません。私個人が判断した部分もありますので、専門家の方からすると「違いますよ。」というところがあるかもしれません。はじめにお断りしておきます。

前回、石積みのお話を取り上げました。昔は確か、鉄道のトンネルの曲線はまん丸ではなく卵形だったように思います。その方が強いと説明を受けた記憶があります。通潤橋はほぼ正円のように。今は高速道路にしても新幹線にしてもトンネルの曲線は正円が多いですね。これは掘り方の違いによるようです。今は円盤のような大きなドリル（シールドマシン）を使って一気に穴を開けているようです。掘り進む映像を何かの番組で見た記憶があります。それで必然的にトンネルは正円になっているのでしょうか。掘っている作業はすごい迫力です。

またNHKですが、「プロフェッショナル〜」という番組でいろいろな職業の方を紹介しています。ある回に土木作業現場で活躍する女性パイオニアの方が登場していました。番組の中では主に安全管理システムを構築する責任者としての働きぶりを紹介していました。この方は山口大学及び神戸大学院で土木を学び、インドなど世界の国でトンネル工事に携わっていたそうです。現場に女性が入ることはタブー視されていた時代のため、多くの苦労があったことだろうと想像します。トンネル屋さんから安全管理？と私は不思議に思いましたが、仕事をする上では扱う内容も変わらざるを得ないのかなと想像しました。または自らその業務に従事しようと思われたのか？

右の写真はかなり強引な関係付けです。



シールドマシン マイナビニュースから



トンネル ↓
もぐら ↓
3年生と作ったもぐらよけ風車

自校自賛 コース受講者

上述した授業の中で受講生が自己紹介を兼ねて講師の先生に受講動機を述べる場面がありました。年齢や経験もそれぞれさまざまでしたが、ものづくり（建築）に魅力を感じているという点では共通していました。前向きな意見を聞いてうれしく思ったこととこれからの4か月の学びが充実するであろうと感じました。